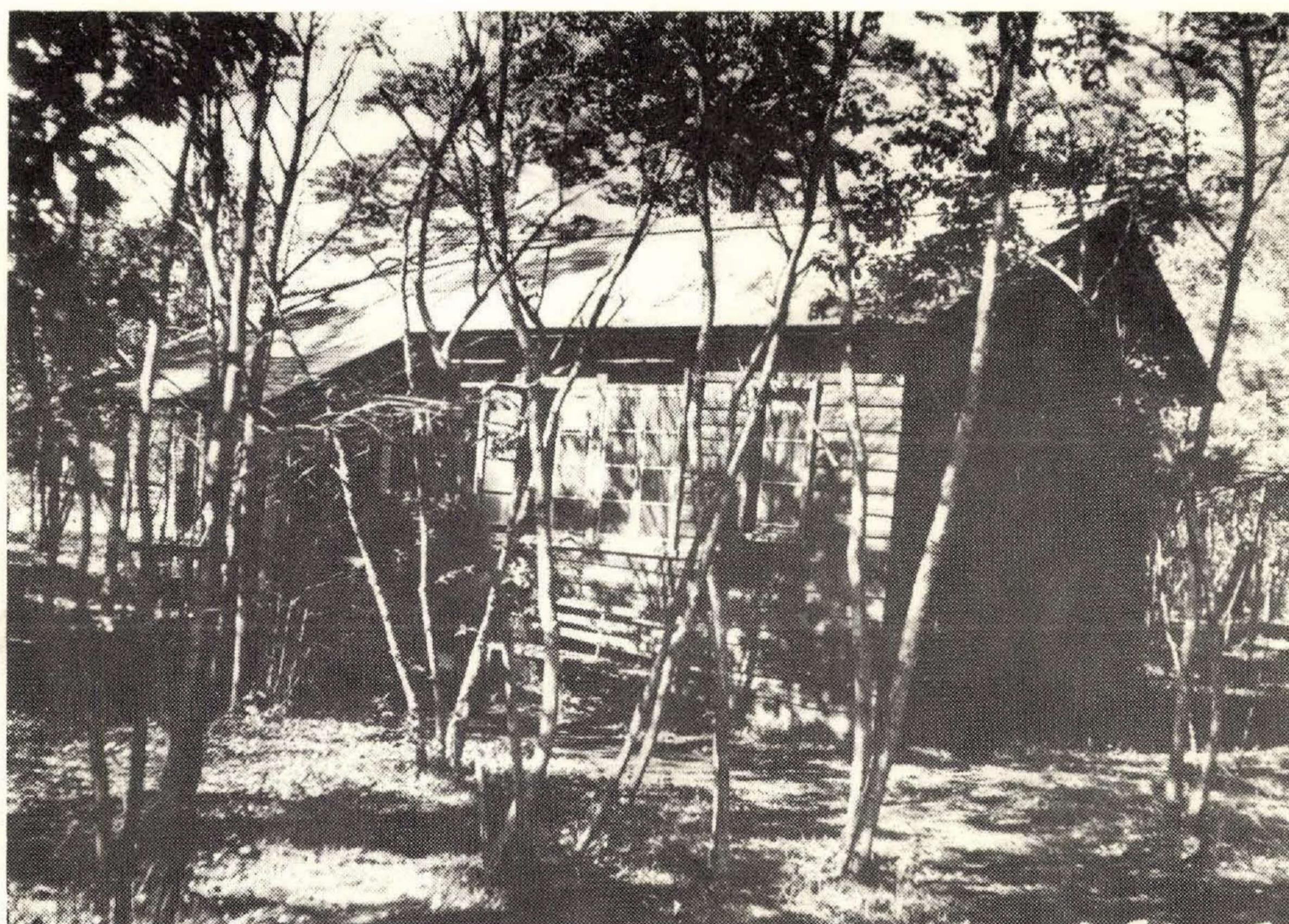


針葉樹會報

復刊第 60 号



1981. 12

目

次

奥多摩山行		根本	大
岡田謙三君を悼む		中島	孚
奥大日岳の乙女		柿原謙一	3 1 1

特集 部室五〇周年記念

部室五〇年

一建設経過を中心にして 増山清太郎
国立の緑の中の既得権 勝田有恒

小谷部・森川両君の手紙(二) 望月達夫

81夏のたより

一なつかしい山仲間の声――

一橋山岳部インドヒマラヤ

登山隊遭難報告

会員名簿変更

会計報告

編集後記

19 22 21 20 13 9 7 4

表紙写真 国立部室(昭和十年)

昭和十年初夏にうつしたもので、窓も一ヶ所あいており、山友がなかにいたわけです。ベンチも見えてなつかしい思いがわきました。

(写真と文・柿原謙一)

奥多摩山行

根本 大

岡田謙三君を悼む

中島 孚

七月四日可さんを悼み、増山さんを始め諸兄と集う。旁、大寺山に登る。

編集人
▼136 東京都江東区大島
6-13-1-308
松田重明

発行日
1981年12月15日
発行所
針葉樹会
印刷所
大栄印刷

梅雨寒さむや叱咤するごとく川流れ
日射しかな梅雨山道にまるくあり
顔に触るゝ梅雨山霧のそのまゝに
山杉のすべてや梅雨の蜘蛛の糸
語るなし梅雨の山霧くどりけり
梅雨の杉梅雨の荻へて登りけり
梅雨の岩蒼しきるしとみて登る
黒き大仏舍利塔の梅雨に吠え
梅天の日射しや仏舍利塔の白
梅雨の蝶仏舍利塔の昼守る

終

今年の六月末、久しぶりで新潟の山へ行く機会を得た。八十日越である。芳ヶ平から、椿尾根、番屋峠、鞍掛峠を過ぎると、小松横手と云う、最も見晴しのよい場所に出る。眼前に、黒姫、その右に守門が続いている。まだ相当の残雪があつて、優雅な姿を見せてくれた。実はこの守門岳を見るのは四十八年振りである。（昭和二年も終り、三年に進学する春休みであった）（昭和八年三月）。安達君（覚能泰三君故人）が守門岳のスキー行に誘ってくれたので、小橋君（岡田謙三君）と共に三人で出掛けた。長岡の安達家で一晩御厄介になり三人で呑み始めたが、私は酒には弱く、たちまちダウン。小橋、安達、の二人でウイスキー角瓶が、すぐ空になつた。それから何本呑んだのか私には判らなかつたが、二人とも酒豪であつた。翌日は二人共ケロッとして出発。その日は柄堀に一泊。三日目に漸く道院小屋に着いた。豪雪下の小屋の入口が仲々判らず、もうぐり込むのに一苦労した。

四日目は本番であつた。天気は余りよくなかったが、

一本撫を経て大岳まで登つた。果して雨になつた。仕方なく守門頂上は断念して小屋に戻つたが、長岡出身の安達君は、さすがスキーは手なれなもので、尾根を下るとき股制動な

学生が、一つ橋のバラック校舎に籠城した事件は御承知の通りであるが、彼は丁度骨折の療養中で、これに参加出来なかつたことを書いてゐる。

大雨となり、而かもこの小屋に三日三晩缶詰にされたときのこと。

るものをお教へてくれた。なる程便利なものだ。小橋君と二人で大いに利用して見た。小橋君のストックが遂に折れてしまつた。守門岳を見ながら、こんなことを思ひ出していた。

私も昭和九年に彼と宮川雄二郎君（故人）と三人で、針木峠を越えて、針木谷の上部雪渓をトラバース中に滑落し、必死でピッケルを突きさし、やつと止めて事なきを得たこと

二人共遇然、大阪勤務になつた。引続き彼とはよくスキーに出掛けた。鹿沢、野沢、夜久野、妙見穂夫、氷ノ山、伊吹山等に関西で一応スキー場と云われた処には殆んど全部出掛け

小橋君は昭和六年七月に北仙人山から折尾谷へ転落し、足を骨折した。当時の新聞に『小橋権三』と報ぜられたので、以来ゴンチャンと云う愛称になつた。昭和十年前後の会報にゴンチャンとあるのは後のことである。

かあつた。ポンの一分にも満たない、瞬間的出来事であつたが、忘れることが出来ない事件であつた。私はこの時のことを記念文集に寄稿した。偶然二人とも自分の山の事故のこと書いたことになつた。

こんな思い出を話合いながら、大仁 ホテルで一夜を過したが、思えばこのときが彼との最後の出会いであつた。

「俺の足には金の針金がまいてあるんだ、安
ものぢやないぞ。」等とよく云つていいた程、す
っかり回復して、スキーに山に行ける様にな
つていた。しかしその時のショックは大きか
つたようだ。

又四十五周年記念全国大会を、大仁ホテルで開催した（五十五年十一月十六日）。

念行事の為、夫人と共に上京され、五月の連休に熱川へ旅行中、脳血栓で倒れ、石神井の小山病院に入院していたが、五月二十五日早晨心筋梗塞の為逝去された。

昭十会で卒業四十五周年記念文集を作るこ

祝し、話は学生時代の山の話になつた。

ととなり、十月頃完成予定であるが、岡田君の寄稿は『籠城不参加の弁』である。昭和六年十月に予科、専門部廃止案に反対して、全

宮川君と彼と私の三人で蔵助平行の失敗談
五色原で濃霧にまかれ、大声を張り上げなが
ら、やつと捜し当てた五色小屋に入るや否や

奥大日岳の乙女

柿原謙一

夏にはやはり北アルプスの一角に立つてみたい。静かなところをえらべばいい。山田亮さんとの話しあいで、雷鳥沢に幕営し奥大日岳往復ときました。この山には登つていなかつたし、花がうつくしいという倉知さんの話にもひかれた。

七月下旬に室堂駅から雷鳥沢幕営地にむかつた。みわたすかぎり雪渓と大雪田で、積雪多かりし今冬の名残りは美事といふほかなかつた。テントのすぐわきに、炎天のもとでとけて流れる雪渓の水がえられた。

六十歳台の二人だけの幕営だから、「粗衣粗食に甘んじましょ」という夜がきた。だから翌朝六時すぎには出発できた。

奥大日岳の山稜にはガスがかかつてゐたが、らず、適当に少憩してから奥大日へ戻つて昼称名川をわたつて室堂乗越につく頃には夏雲の去来はあるものの、よく晴れてきた。ここまで花は登山道の両脇に美しく咲いていたが、室堂乗越から奥大日の間はよりきれいな花と草原を堪能できた。絢爛豪華といふので

はなく、嬌嬌として美くしく、細く長く道ぞいに絶えず咲く清浄さに打たれた。

こんなきれいでしづかな登山道のせいでも、あろうか、奥大日につくまでに、単独行の乙女と、ときおりゆきかわした。「オヤ、お一人？」ときくと、にっこり笑んで「エエ、一人です」という返事がかえつてくる。どの乙女も元気でほがらかで美人であった。目を轉ずれば、弥陀ヶ原には雪田をよぎるバスまでもみえ、東北側にはガスの去來する剣岳と早月尾根がある。

奥大日の頂上から大日岳への稜線をすこし降つてみた。しかしここより低い大日岳まで歩いて、それからまたUターンする気もおこ

茶店あたりで妙な音楽なんか聞いてすごすより、山のほうがなんぼよいか」「でもわたし、どちらも好きなんですね」「オヤ、両刀づかいですね」

食をとつてしまつた。熱いコーヒーを飲む。ふたたび今朝登つてきた室堂乗越へと、ゆっくり花を眺めながら歩く。ここでも大日小屋へ縦走する単独行の乙女数人とゆきかわしまだ女性に好まれる道だなと思う。

乗越にちかづいた頃だつたか、また乙女人が登つてきた。その乙女はたちどまつて、にこやかな笑みをもつて私を見た。山田さんはもう乗越をすぎて進んでいた。

「オヤ、お一人？」と私はたずねた。

「今朝一人で、ゆきちがつて、お目にかかるつていますヨ」——これには驚いた。

「いや、これは失礼しましたネ。それにしても貴女これから何処へゆくの？」

「大日小屋に泊つてゐるのです。今日は室堂までゆき、これから小屋へ戻るのです」

「お若いときに、こんな静かな美しい山の生活を楽しめると大賛成ですよ。妙な奥

しゃべりの間の立ちばなしだつた。そして彼

女は、別れぎわに私が新調した尻皮を、きれいな毛だとほめてくれた。

この乙女は、やや小型といえは小型だつたが、健康的で丸顔、明眸皓歯のきれいな快活

な女性だった。すばらしい乙女だな、といふのが私のうけた印象である。昭和十二年の夏

まつていた山田さんに合して、雷鳥沢のテン
トに着いたのが一時すぎであつた。

ると、日本語でいえば四阿のようなもので、部室としては使えないものであることが判つ

に、大荷物を背負つて弥陀ヶ原を雨中劔沢合宿に向つた頃には、とても想像もできなかつて暮かま戦の夏山である。

・シナノキンバイ・ミヤマキンバイのそよぐ
イワカガミ・チングルマ・ハクサンイチゲ

その夜も粗衣粗食。翌日は一ノ越に直行して淨土山・龍王岳に登り、戻つてテントを撤収し、大町に帰つた。この山行、六十歳台の二人でできた幕営に加えて、草原の乙女の好印象があり、忘れえぬ夏山となつた。

建設費の百円は返却の必要はないとの長蔵氏のご意向だったので、その用途を相談しているうちに、話はエスカレートして、国立の雄木林の中に山小舎風の部室を作ろうとこうて、がっかりしてしまつた。

部室五十年

増山清太郎

話は第一次世界大戦（一九一四—一八年）ジストンタイヤ、ローマイヤ等の企業は、彼に始まる。当時アジア大陸は列強により植民地化しつつあり、日本は出遅れていた。そこで歐州の騒乱に乗じて対支強硬策を執つて、二十一ヶ条条約を押し付け、日英同盟に名を借りてドイツの拠点青島を攻略して、捕虜を内地に送ったことは、歴史教科書の教える通りである。ところが捕虜といつても職業軍人は少なかつたし、日本人は心情的にはドイツ人に同調する傾向もあつたので、これら捕虜を利用もしたし、優遇もした。今日のブリッジストンタイヤ、ローマイヤ等の企業は、彼等の技術によつて基礎が置かれたものである。ある捕虜の一人は組立家屋を作つて、金に換えていたが、その一戸を磯野計藏君の嚴父長蔵氏が買取つて、自邸の倉庫に入れておいた。一橋大学は、関東大震火災（一九二三年）によつて校舎を失い、紆余曲折をへて、一九三〇年九月に国立に移つたところ、移転直前に磯野君から、件の組立家屋に建設費百円を添えて部室として寄附したいという申し出があつたので、一同大喜びをしたが、現物を見

ばいけない、と説いた。しかし実際に国立に移つてみると、あてがわれた部室は専門部（現、東校舎）の隅の廃屋に近いものの一室でしかも数部の共同使用という始末で、全く部室の用をなさなかつたので、懷疑論は霧散して三一年春の竣工を目指して、建設に邁進することになつた。が、一方ではこの年は山行 자체も活発に行われた事実は見逃さるべきでない。

は少なかつたし、日本人は心情的にはドイツに磯野君から、件の組立家屋に建設費百円を人に同調する傾向もあつたので、これら捕虜添えて部室として寄附したいといふ申し出が利用もしたし、優遇もした。今日のプリツあつたので、一同大喜びをしたが、現物を見

資本計画は次の通りである。即ち、建設資金八百円、予備費五拾円とし、調達面は、

本科部員拠出

一六〇円

予科部員拠出

三〇円

部費補助

一〇〇円

「針葉樹五号」益金

二〇〇円

針葉樹会寄附

二〇〇円

浦松氏寄附

六〇円

磯野氏寄附

一〇〇円

となつてゐる。以下項目別に説明すると、

本科部員拠出といふのは、当時の部員二一名が、五円ずつ拠出し、その他によく部室に集まる連中は九月から月に五十銭ずつ出したものである。予科もこれに準ずる。

部費補助は、部の経費を節約したものであるが、同年にはごく大型の天幕も購入しているので、せいぜい百円しか捻出できなかつたのであろう。

針葉樹五号は、その内容からして一百円の利益は挙げ得るものと考えたのである。結果は予算通りになつた。

針葉樹会寄附といふのは、会に資金があつた訳ではなく、会員から取立てたものであるが、当時の会員は十数名、歴史に残る大不況

の最中で、給料は安く、特別の人をのぞけば平均月百円くらいだつたろう。新婚早々の

人、結婚準備中の、背広を揃えなければならぬ人達にとつてこの金額は少ないものではなかつた筈である。針葉樹五号の利益といつても、実際には可成りの部分が針葉樹会員の背負込みになつていたに違ひないし、針葉

樹会自体の運営費もかかるし、このような状況の中で二百円の寄附を頼んだ私達は、随分図々しかつた訳である。松本謙三氏が取纏めを引受けたが、大分苦心しておられるようであつた。総括責任者は高瀬進三君であつた。

浦松氏寄附といふのは、当時氏は一橋山岳部への接近を図つていたので、寄附を得たのである。

資金が集りかかると、大学との折衝が行はれた。建設そのことには異議は生じなかつたが、維持管理については、木村部長と黒川事務官は、「諸君は使用権を確保すれば、所有

権は持たないでも差支あるまい。大学に寄附すれば何かにつけて好都合であろう。将来の修繕費も出して貰えるだろう」との意見、佐々木収入官（後、事務官）は、「大学は機構

上、一つの役所であつて、その施設は一冊の本、一本の立木に至るまで国有財産である。

部室を大学に寄附するといふことは、法的には国に寄附することになる。従つて政府が除外を命じてきた場合、大学当局は阻止する力を持たない。やはり諸君自身が所有する方がよい」との意見であつた。私達は佐々木氏に従つた。この見解が妥当なものであつたことは後に知られる。

かくて三年四月二一日に棟上げを行ひ、五月一〇日の大学移転祭までに竣工させよう

としたが、工事はなかなか進まない。原因をさぐつてみたら、大学の推薦によつて契約した岡本組といふのが信用に乏しく、下請への支払いが滞つてゐることが判つた。彼等をどうしたりすかしたりして、五月下旬には完成に漕ぎつけた。

設計者の粟谷氏については、全く記憶がない。

灯のつくまで愉快に談笑した（注一）。

かくて私達の拠り所が出来た。私の卒業する三年三月までは、維持管理上特別の問題は起らなかつたが、その後、大学当局にとても甚だ迷惑な存在になつたと聞いている。

部室建設に当つては、大学の了解は得たが、正式の許可を受けた訳ではないので、大学にとつてみれば、「何物でもない物」にすぎず、直しありして、外観を変えずに維持を図られた時にも載つてなかつた。神田の狭い所にいた時には、十数万坪の敷地の隅に小さな山小

山面にも載つてなかつた。

除却の理由になる。従つて根継ぎをしたり、

つつかい棒を立てたり、こつそり屋根を葺き

ければならない、ということであつた。

（注二）針葉樹六号（一九三一・六）

一橋山岳部報二、四、五号（一九三〇・

舍があつてもよもや邪魔になるとは思はなか

つたのであらうが、実際に土地を利用しよう

とすると、何かにつけて部室が障害になる。

国有財産ではないから政府が勝手に処分する訳にも行かぬ。官舎の設計を変更しなければならなかつたり、会計検査官の目をごまかす

為には、非常な苦心をしたともいう。

戦後になつて大学の態度も變つてきて、

「何物か」に昇格した由である。それには針葉樹会員で大学に職を奉ずる諸君のお骨折りがあつたのであらう。十年ほど前に勝田有恒君から委しい経緯を伺つたが、なにせ役人と

私達では考え方まるで違うので、失礼ながら話の筋がよく判らなかつた。結論は部室は

大學の附屬施設の附加物として認知されたが、その法的基盤は極めて弱く、全面改築は到底認められない。修理もやり方如何によつては

この年に結婚されたホヤホヤであつた。堀岡、小橋（後の岡田）、沢井、林、となつてゐる。夫人同伴の三氏はいずれもこの年に結婚されたホヤホヤであつた。

私は確かに出席したが記録に落ちてゐる。この日の記念撮影があるので、この頃の写真一箱が見付からぬ。

最近のこととは知らない。

（注二）針葉樹六号（一九三一・七）

一一一九三一・七）

針葉樹会報一ノ二、一ノ三、一ノ四、二

ノ四（一九三〇・七一一九三一・五）

は、その利用状況、雰囲気、山岳部の発展へ

基く表面的な記述である。読者の主たる関心

は、その利用状況、雰囲気、山岳部の発展へ

の寄与等にあると信ずるが、その辺は人を変えて書いて戴きたいと思う。

追記 丸茂平造君の語るところによると、山梨県で、ドイツ捕虜の技術指導によつてブドウ酒を作つた事業があり、

今日のサントリー（株）ワイン部門になつてゐる、とのことである。

（注一）この記念すべき会の参加者は、一

の記録は三〇名として名前を挙げず、他

の記録は名前を挙げて数を記さず、両者

が一致しないが、松木、近藤、高橋（

三氏は夫人同伴）、浦松、村尾、金田、

磯野、園山、芋川（後の山口）、高瀬、

小川、関、吹原、鈴木、清水、丸茂、太

田、勝田、大友、百合（現、森）、間瀬、

堀岡、小橋（後の岡田）、沢井、林、と

なつてゐる。夫人同伴の三氏はいずれもこの年に結婚されたホヤホヤであつた。

私は確かに出席したが記録に落ちてゐる。この日の記念撮影があるので、この頃の写真一箱が見付からぬ。

國立の緑の中の既得権

勝田有恒

三年前学生部長をしていたとき、ボート部（四神会）の艇庫の敷地についての国有行政財産の査察の予告があつたことから、一つの問題が起つた。すなわち、一橋大学の艇庫が戸田に移つた頃昭和三一年に、四神会が敷地内に別の合宿所を建設した。大学側は暫くして大学（国）に寄付を要請したが、管理・使用が不自由になり、他大学や実業団への貸与も不可能になる可能性があるとの理由で四神会は応じなかつたといふ（この辺の事実関係は必ずしも明らかではなかつた）。とに角、戸田の敷地（国有地）には、國のものでもなく、國が土地の使用を許可していない、したがつて代帳に載つていない幽靈建物が、二〇年以上も存在していたことになる。国有財産の管理は大蔵省の財務局が当り、法律的根拠は国有財産法とそれに基づく管財局長の通知（蔵管一号）である。この通知は詳細な条項

からなり、逐一検討してみたが、四神会の建物のケースについての使用は許可の対象とはなつてない。このような場合はこの法律に依ると國に寄付し、國の行政財産とするのが原則となつてゐる。そこで今の時点で寄付と原則となつてゐることを考えてみた。担当者の意見では、三〇年代には古い建物も寄付の可能性がある（小平の如意団道場がその例）、現在は事前に寄付を申告して大蔵省と協議し、建築後速やかに寄付手続をするのが原則となつてゐる。以上は國の側の論理である。学生部長は一応國側に立たざるを得ないが、當時私は関東財務局の指摘事項に取り上げられると学長の責任が公然化すること、万一失火でもしたらその責任は非常に重くなること、建物が老朽化しており、四神会もそのままいつまでも維持してゆくとは考えていかつたことなどを理由に、取毀しの線での処理を判断したと記憶している。

「何もないところから火」という大学としては国有財産法とそれに基づく管財局長の通知も極めて厄介な問題に当面することになると聞くに及んで学生部長としても腰を上げざる

を得ず、經理当局と折衝して、倉庫の名目で代りの建物（國の行政財産）を建てる上で四神会も折れ、どうにか問題は解決した。以上要点のみを記したが、国有財産の管理は昭和三〇年代以降非常に厳格になり、私的な建物は、大蔵省の了承をとり、寄付をすることも前提としなければ建設することが不可能となつてゐること。かりに國が土地の使用貸借を默認してはいたとしても、いつでもその返還を請求できる（民法五九七条三項）ことになつてゐることもある。

ある。財務局の査察があつて、もしこの一橋の財産目録とその図面に載つていなかつたわが部室が発見されたとすると、大学の事務官は、「何が見えますか、私には一向に何も見えませんが」とでも返事するしかないかも知れない。しかもこの部室が国立キャンパス内の部室の一つである点が、上記四神会の場合と異なつてゐる。ボート部はその伝統によつて向島に艇庫を有してゐて、一つの既得権を享受してきている。国立の部室と考へるなら、その他部の部室の一つに入れられる可能性は充分にある。つまり大学に対して代替の建物を請求する場合を考えてみると、文部省が学生数に応じて「サークル共用施設」の建設を推進してきており、山岳部もその中に入らざるを得ないからである。したがつて、わが部室は、一橋山岳部の部室としてではなく、針葉樹会の部室であることを確認しておく必要がある。しかしそう確認したからといつて、問題が公のものになりかけた段階で、代りの建物を要求することは極めて困難である。また針葉樹会員もそれを望むところではないであ

ろう。大部分改築されたとはいえ、五〇年来の部室のたたずまいは今に生きている。これをなんとか現在のままで存続する途を考えなければならぬであろう。なにしろそれは五〇年の星霜を経てきているのだから。

存続の論理を構築する際に、最も重要な点は五〇年という時間の長さである。まず国に対する現時点での寄付の問題は四神会の場合に記したようにまず不可能であろう。残された途は要するに居直りしかない。五〇年という充分な長さを利用して、時効の問題は考えられないだろうか。公物には原則として時効取得は認められないが、公物を平穏公然と占有しているのに、長年公物管理者がこれを放置している場合には、もはや公物本来の機能は發揮されておらず、むしろ默示的に公用廃止がなされた状態にあるといえるから、公物であっても時効取得が認められてよいとする有力な学説があり、国側に公物廃止の意思

ている。大学側が公用廃止の意思を有していると認められるか、部室の占有部分の土地所
有権の取得まで請求するのか、使用権を認め
させるので充分であると考えるのか。問題点
はあるにしても、抵抗の論理は用意されてい
るといえる。それを強化するためにも、わが
部室創建当時の事実関係、大学側の対応姿勢
その後の経過、とくに昭和三〇年代の大学側
の要請の有無、等々を正確に記録しておくこ
とが肝要である。事実と時間によつて成立っ
ている古色蒼然たる既得権が、ピカピカの官
僚法を打破るケースはないとはいえない。そ
して部室を利用する現役の諸君、くれぐれも
火の始末に気をつけて欲しい。あそこから火
が出たら、火の無いところから煙が出たこと
になるし、五〇年の既得権とわが山岳部の歴
史の一部が灰燼に帰することになり、またそ
の再建のための論理も腰くだけになること必
定だからである。

る有力な学説があり、國側に公物廃止の意思が認められることを理由として認めた最高裁判例もある。この論理をわが部室に完全にあてはめるためには、検討すべき点も残さね

と、山が恋しいですね、写真等出して見て居るよと遠い昔の想出の様に感じて来る昨今、些か淋しい感じです、では今日これで

○昭和十三年六月十六日付 兵庫県阪急沿線 西宮北口甲風園二号地菊屋アパートより（ハガキ）

前略 梅雨気味の昨今如何、前年迄は今頃

ともなれば、物さびたあの懐しい部屋に集つて、夏山の準備にいそしんだものだつたが。

先週の金曜、珍しくも鷹野が訪ねて来て、学生時代に立還つて大いに歓談し例の如く遊ん

だが、実に愉快だった、目下小生口癖の様だが仕事がえらく多忙で、原稿も思ふだけでよう書けぬ、昨（十五日）関西針葉樹会例会を開いた、会するものの五十嵐、森、中島、岡田、黒田、小生の六人、野村ビル如水会支部で晩餐を共にし、珍らしくも山の追憶、スキーの話に身が入った次第、右宜しく会報記載乞ふ、（住所表記ノ如ク変更ス）

○昭和十三年八月十一日付 西宮北口甲風園

二号地菊屋アパートより（ハガキ）

前略 六日付御葉書拝誦しましたが、昨今

金物関係の統制強化と共に色々手続上煩雜なる事が多く、今の処到底休めません、休暇があり乍ら手離せぬ状態ですから何卒悪しからず、

二十日過でも恐らく駄目だらうと思はれます

が、今からはどうとも予断は出来ません、入當が早目になる由、残念乍ら除隊迄の数年間、

あらゆる私的な生活から遠ざからざるを得な

い訳です、では右御返事まで

○昭和十三年十月十九日付 大阪市東区備後町三丁目十九洲崎方より（ハガキ）

今日上高地へ来ました、大天幕にて暑い内

めつきり秋めくにつれ穗高や北岳の新雪が
偲ばれます、先日は会報有難う、例の如く筆不精で失敬しました、貴君随分山へ行かれた
らしいが、東京は好いですね、小生はどうと
う書けぬ、昨（十五日）関西針葉樹会例会を開いた、会するものの五十嵐、森、中島、岡田、う当然とらなければ損する夏休みも取れず、

定例休暇も未だ一日もとつて居ません、その内その内と思ふばかりで、アパートは止めて

○昭和十四年一月元旦付 信濃四ツ谷白馬館

にて（ハガキ）

御無沙汰致しました、やつと繁瑣な会社か

前略 六日付御葉書拝誦しましたが、昨今

ら解放されて中島、黒田両氏と共に廿一日夜

行大阪発、一日四谷一黒菱、二日から五日迄滞在して附近を滑り廻る積りです、久し振りに雪の北アルプスに接し感激して居ります、たゞし体もオフィス務めで可成りレベル低下

が、今からはどうとも予断は出来ません、入してますから、昔日の頑張りはどうですか（？）

小生六一八日頃帰京しますから何とかお会ひしたいですね、では又

○昭和十四年八月七日付 上高地にて（ハガキ）

今日上高地へ来ました、大天幕にて暑い内

滞在する予定です、今度は携帯寝台等使用して頗る工合宜しいです、一度休暇とつて遊びに来ませんか、大阪に居る時は堪らなく暑かつたのに、まるで中秋の気候です、岳川奥の雪も平年より大分多く残つて居ります、何れ上高地便り等ものとしてお送りしませう、では炎暑の砌御自愛祈上ます、草々

○昭和十五年八月二十七日付 発哺天狗ノ湯

にて（ハガキ）

二十四日から住友山岳会の連中と志賀高原へ来て居ます、颶風の影響か毎日霧と雨です

が、寒い位の高原の風情と温泉情緒は格別です、コースは上林より横湯川を溯行し、地獄谷を経て発哺温泉へ出た処、雨々で伸びて了

同第九十三号所収の志賀高原の旅とあります。

が、寒い位の高原の風情と温泉情緒は格別です、コースは上林より横湯川を溯行し、地獄谷を経て発哺温泉へ出た処、雨々で伸びて了

同第九十三号所収の志賀高原の旅とあります。

ひました、今日は熊ノ湯迄の楽な旅です、委細は帰阪後、前の奥又白谷行と一緒に御報告しませう、では皆さんによろしく、さよなら

○昭和十五年九月二十六日付 兵庫県武庫郡芦屋月見ヶ丘山樂荘より（封書）

○昭和十五年十月二十日付 兵庫県武庫郡芦屋月見ヶ丘山樂荘より（封書）

先般は御見舞有難う、健康は相変らずで来るべき冬山に備えて鍛錬して居ます。（中略）思ふのです、関西にも近く西日本山岳聯盟が

小生は絶対反対です、アルピニズム即危險と目され易いのは、その發展に着実な段階を踏み成されるが、この点注目して居る訳です、

芦屋月見ヶ丘山樂荘より（封書）

随分御無沙汰しましたがお変りありませんか、秋涼と共に雪に想ひ……と言ふ處ですか、が、機構の為の機構、空理空論に惰するもの貴兄も二児を抱えて……で仲々大変でせう、ならば大反対な事勿論です、進歩しつゝある

内に燃えて居る日本山岳会の方向も結構です。登山の実践に対し、録々の努力もせず大き

て居たら、洩れ聞く処によると黙認らしいとはあきれましたね、針葉樹会の連中よく黙つて居られると感心します、クマ、ペン、増山氏達生きて居るのですか？ 大体最近の針葉樹会も實にだらしがないですね、小生住友山岳会の幹事をしてますが、勤務と言ふ制約下では、彼等はもつともっと真陥に山を愛し、

が、茲許同封しましたから不悪御査収の上、ヘ引退せしめる必要があるとは思ひませんか、

な顔をして居る老大家連は、何かの形で裏側が、茲許同封しましたから不悪御査収の上、ヘ引退せしめる必要があるとは思ひませんか、

宜敷願ひます、

この夏は山は如何でした？ 当方も船本が来てどうやら岩のパーティには事かきません

次に最近の遭難問題や新体制の組織組替運

動に便乗して、所謂アルピニズムなる指導概

が、矢張り昔通りの連中が揃はぬと淋しいですね。せいぜい御健闘の程祈居ります、では念が大きな緊張と辛労を伴ふ為か、之を敬遠

右取急ぎ要件のみ、東京の皆さんによろしくしてイーリゴーイングな大衆的な行き方を

実践とか融和を欠いた会は、存在理由の大半失はれて居るのではないかと、些か心配して居ります、まあ貴兄達の御努力を期待して

（註）右同封の山の記録というのは、針葉

理窟づけようと言ふ、卑怯な妥協的な言論が、で

樹会報第九十二号所収の奥又白、前穂高と、商大山岳部内や先輩間にも若干見受けられる

尚小生十二月三十一日夜から一月十日位迄

ます)

は休めます、久し振りに会の連中と何処かへ登りたいと思つて居りますが、如何です、スキーの列車持込禁止の件もあり早々話し合ひ度いと思ひます、

○昭和十五年十一月十四日付 兵庫県武庫郡

芦屋月見ヶ丘山楽荘より(ハガキ)

前略 鷹野の戦死には全く驚きました、あいつ許りは元気で帰へれる事と思って居たのに惜しい事です、過去、生活を偕にした思い出に胸のふさがる想ひです、遺稿集なり追悼号なり、大いに靈を慰めてやり度いと思つて居る次第です。

次に先般お話し伺つた関東学生山岳聯盟、

近々格好が出来る由ですが、趣旨概要等関西の連中知り度がつて居りますから、折返し御急報願上ます(この十七日に関西学聯の集りがあつて、そこで一寸参考迄に披瀝したい相です)

○昭和十五年十一月二十三日付 武庫莊より

(ハガキ)

住所変更御通知(山岳会等へも宜敷頼み

日の帰りに小生宅へ来ませんか、

は休めます、久し振りに会の連中と何処かへ登りたいと思つて居りますが、如何です、スキーの列車持込禁止の件もあり早々話し合ひ度いと思ひます、

前略 今般小生左記へ転居致シマシタ今後

入院、右足指全部切断し、六月二十二日ようやく退院した直後のもので、なかで『針葉樹』

阪急沿線西宮北口武庫莊内(電、西宮二六九三番)

小谷部全助

先日は早速学生懇談会の書類御送附に予り

有難う、大阪も可成り組織や言論は盛んですが、実践の貧困が淋しいですね、鷹野の写真等眺めて何時も思出しては残念に思つて居る

次第です。

○昭和十六年四月二十九日 品川区大井元芝

町八四九より(ハガキ)

次に先般お話し伺つた関東学生山岳聯盟、
近々格好が出来る由ですが、趣旨概要等関西の連中知り度がつて居りますから、折返し御急報願上ます(この十七日に関西学聯の集りがあつて、そこで一寸参考迄に披瀬したい相です)

○昭和十五年十一月二十三日付 武庫莊より

近々格好が出来る由ですが、趣旨概要等関西

の連中知り度がつて居りますから、折返し御急報願上ます(この十七日に関西学聯の集りがあつて、そこで一寸参考迄に披瀬したい相です)

○昭和十五年十一月二十三日付 武庫莊より

(ハガキ)

住所変更御通知(山岳会等へも宜敷頼み

日の帰りに小生宅へ来ませんか、

傷の方は増え好調で昨日など六七丁も歩き

次の森川君の手紙は、十三年春、奥又白奥

壁登攀でひどい凍傷をうけ、築地の林病院に入院、右足指全部切断し、六月二十二日ようやく退院した直後のもので、なかで『針葉樹』十号作成の点にもふれている。十号は森川の

当初の計画よりおくれ、翌十四年九月に発行された。

○昭和十三年六月二十八日付 神奈川県湯河原温泉上野屋旅館より(封書)

拝啓 先日は電話で失礼しました、のりちゃん(註=私の長男のこと)の病気は如何ですか、東京に居る中、一度会ひたかったのですが、病院長の許しが出たし、おやじが一緒に行こうと言ふので一昨日湯河原へやつて来ました。

陰鬱な雨も昨日今日は珍しく晴れ上つて、緑滴る伊豆の山々が、強い初夏の太陽にきらきら光つて居ります、久し振りに見る山は小さくながら感慨深いものがあります、俺はもう当分あの頂へさへも立つ事が出来ないと思

整理してないし、最近新人の傑作に伍しては先づ発表する価値なしと思つて居ります、鷹野君の話等したいが、御都合いたら五月一

ました、勿論両足で以てです。御安心下さい。大体、大綱を決定しましたが、何しろ始めて此の温泉の湯は体に合ふせいか、小生には大変きく様です、気分も悪くないので十日程滞在する積りで居ます、おやじは二三日中に帰るので淋しくなります、若しお暇でしたら遊びにお出で下さい。

それから先日小生宅へ、佐々木、岩崎、大塚、日江井等が集つた折、丁度よいので相談した結果、八月から九月へかけて針葉樹十号を発行する事にきめました。時節柄如何かとも思はれますが、山岳部として今一区切り付けて置いた方がよいと思ひますので、内容を充分吟味して圧縮し、小粒ながらびりっとしたものを作成する考へです。内容形式に関しても

の連中ばかりの事とて、貴兄始め先輩諸兄の連絡には出来ない相談です、詳細は帰京の上お話しします、宣しくお願ひ致します。本科二三人が書きます。大体の形式は既刊の取敢えず広告の件ですが、之は夏休中に相当働きかけた方がよいと思ひますので、此の事に關しては日江井に一任して置きました、小生からも一応要領は話しましたが、具体的の点につき面倒でも御教示願ひます、他の部員にも一応心得などお伝へ下さる様。本の内容説明としては、頁数、百頁内外、写真十二三葉、九月下旬発刊（十月初旬になるかとも思はれます）発行責任者は小生です。本文とし

敬具

森川生

六月二十八日

望月兄

机下

（一九八一・五月記）

， 81 夏 の た よ り

なつかしい山仲間の声

〔望月達夫〕

7月5日 本栖湖周辺の牛首山—仏峠—釜
九沢—カムイエクウチカウシ山（往路を戻る）
額

8月26～30日 帯広—中札内—札内川八、稻又山（往路を戻る）
J A C 北海道支部山行。針葉樹会では他に、せなかつた。

〔佐々木誠〕

湯ノ平

7月11～12日 石尊山—黒斑山—仙人岳—

佐々木誠、大塚武、小野肇、三君が参加。

9月4～6日 井川—中ノ宿—所ノ沢越—

この夏の二つの山行は、めったにない天氣

とよい山仲間に恵まれて思い出深いものとなつた。

○雲の平 7月31日～8月3日、富山側から入り高山に出る。ジャパンライン・ハイキンク部山行に参加。近藤先輩、村尾統一君（故村尾先輩の御子息）と。

念願の雲の平は色とりどりの天幕の花盛り。とんで行く。こちらは無我夢中で、これを追三俣蓮華から双六へは、予科生のころ森脇先輩と迎つたところ。その時は生憎の霧の旅。今回は大快晴で、北鎌尾根をゆっくり眺めた。

かくしゃくたる近藤先輩にあやかって、今後

も健康の許す限り山歩きを続け度いと思う。

○カムイエクウチカウシ山 8月27日～8月29日、札内川八の沢合流点幕営地より往復。

か興奮気味で寝に就いた。

J A C 北海道支部山行に参加。望月先輩、大塚君、小野君と。

望月さんにはかつてのホームグラウンドに帰るようなものが、小生にとつては未知の山、海外遠征のような気持で羽田を出発した。せつ頂けると思います。ただ北大OBの方々をはじめ、支部のそぞうそうちたるメンバーがいるので、その点はたいへん心丈夫。あとは体力がもつかどうか不安だ

つたが、なんとか皆さんにひっぱられて頂をふむことが出来た。八の沢の下りでは小野君に先導してもらつて助かつた。彼は北海道の山に魅せられて北電を選んだと謂われるだけに、さすがに沢歩きは堂に入つたもの。セキ

レイが岩をつたうように、巧みに夕暮の沢を山に魅せられて北電を選んだと謂われるだけに、さすがに沢歩きは堂に入つたもの。セキ

うのが精一杯。幸いに水にもつからず、暗闇に先発組の明かりが見えたときは、ホット胸根から鹿島槍、日帰りで蓮華岳に登りました。

しかし、トレーニングの甲斐もなく、カナダ

8月22日 夜行寝台北星で盛岡に向かう。

8月23日 早朝盛岡着予定が、台風とともに北上した格好で、半日以上遅れて、一九時台風の影響による降雨の中での出発である。

この夏は体調の回復に専念し、ボールを追すぎ盛岡着。市内の旅館に泊る。

つて芝の上を歩いたりしながら、次第に復調して来ました。次の機会には、山にご一緒さバスにのる。九〇〇着、第一リフトにのる。

第二、第三リフトは台風による倒木のため運転中止。九二〇歩きだす。犬倉山をへて火口原に下り、火口湖を見物。焼切沢をつめて、不動平（九合目）一七〇〇着。風が強いの

「山田亮三」

8月14～31日、カナダの山旅をして参りました。

した。そのカナダ行に備えて、7月下旬、柿原兄と雷鳥沢幕営。奥大日岳、竜王岳に登り、その後から鹿島槍、日帰りで蓮華岳に登りました。

原兄と雷鳥沢幕営。奥大日岳、竜王岳に登り、その後から鹿島槍、日帰りで蓮華岳に登りました。そのあと一人で天幕をかついで、爺ヶ岳南尾根から鹿島槍、日帰りで蓮華岳に登りました。

ではヨレヨレで、名のあるピークには一つも登れませんでした。詳細は、倉知君か加藤君が会報に書くことと思います。

で着込んでから出発、八合目小舎一七〇・三〇

話をきけたこと幸せでした。

着。台風のためか小舎には誰もいない。それ

「間々田良雄」

でも、深夜、登山者数名来泊。

8月25日 四〇三〇起床、炊事、六〇三〇出発。頂上を往復、八〇三〇帰着。快晴、眺望絶佳。九〇〇小舎発。馬返し着一一五〇。昼食後出発一二二〇。柳沢着一三〇・一〇。タクシーを頼み盛岡駅へ行く。帰りのダメヤも狂つて遅延したが、どうにかその日のうちに帰宅できた。

「松下順吉」

こちらにいると刺激がなく、山歩きも遠のく一方で、山の本などを読んでウサをはらし

ているという次第。吉沢先輩の『山へ』も早速拝読。少年期の生活圏が私と一致していたので懐しさ一入。長谷川恒男のグランドジョラスはモンブランから垣間見た故もあってそ

の超人ぶりにびっくりしました。『山靴の音』

の中の八ヶ岳の遭難記事も仲々迫力がありました。

思いがけず、神戸から学生の稻毛君が勤務先へ来てくれ、本当に七、八年ぶりで学生の

前に張った八張のテントから代金を集めて里

へ降りて行つた。

8月14日 六時半発。八時半みずがき山頂。月下旬にとり、伊東宇佐美の山小屋にこもつてたまつた本を四冊読み上げ、いささか頭脳の洗濯をした次第。

次いで8月22日には神戸ポートピアホテルで催された「海軍兵科第四期予備学生総員集合の会」に出席。全国から馳せ参じた六〇〇名を超える同期生とともに、戦没者の靈を慰

さめ、ご遺族の方々に心づくしのおもてなしをしてきました。

さめ、ご遺族の方々に心づくしのおもてなし

をしてきました。

「樋口洪」

現在の体力を考え、とりつき易い所でみず

がき山に行きました。

「山崎拡」

平ガ岳へ三日がかりで行つてきました。天

気はまずまずというところでしたが、まだ人

が少いせいか、ゴミがなく荒れていないのに

感心しました。

8月12日（夜行）—8月13日小出—シルバ

ーライン—奥只見ダム—尾瀬口—一〇・〇〇

八分通りの入りで相当泊りがあると思つてい

たところ、夕刻になつても泊りは同行の伴と

二名のみ。小屋番フテクされて、我々と小屋

山頂一一六〇〇キャンプ場（泊）—8月15

〔高崎治郎〕

今年の夏は家族サービスで黒部から立山へ行きました。初日は夜行の疲れが出て一の越でダウソ。子供一人だけが上まで登りました。

雷鳥荘に二泊し、一日目は別山乗越から剣岳を雲の間にかいま見て感激し下山。三日目は、峠の友人の別荘まで車で行つたので、山行と弥陀ヶ原湿原をのんびり歩き、富山を経て名古屋に出て、同期の鈴木克ちゃんにも久し振りに会つて帰つて来ました。

〔佐薙恭〕

山行復活約三年、復活後の山行回数が漸く五〇回になりました。

最近は何かと忙しく、山行ペースは下降中

で、活発な諸先輩の足もともに及ぶませんが、何とか月一回キープを心がけています。

夏は奥多摩二回、会津駒と小山行三回のみで、テントや宇宙食まで買って準備した南の南は、どうしても都合がつかず、またのチャансとしました。

〔鈴木克夫〕

八月下旬山行の準備をしておりましたが、人間ドックに入った結果、成人病要注意との

ことで静養の夏でした。体調の回復を待つて、秋には近郊の山を歩きたいと思っています。

〔岡垣治雄〕

昭和二十九年に入部した折の歓迎登山以来、雷鳥荘に四半世紀ぶりに入笠山へ行きました。御所平を雲の間にかいま見て感激し下山。三日目は、峠の友人の別荘まで車で行つたので、山行とも言えぬものでしたが、とてもなつかしく、

赤トンボや松虫草を賞でてきました。

〔中村保〕

メキシコと縁が切れず、夏の半分は彼の地

で過さざるを得なかつたので、満足のゆく山行はできませんでした。でも、寸暇を利用して、せがれを連れて奥只見から尾瀬ヘテントの旅をしてきたのが、唯一の話題です。

次の機会には少しでも内容のある山行をと

考え、他人にも語り、自分をそう仕向けようとしていますが……。

〔上原利夫〕

二木会に入会し、先輩方の計画された山行にジョイントしています。本格的に復活したと

言えるかどうかわかりませんが、体力の許す範囲で参加したいと考えています。今年の夏

は、まとまつた休暇はとれず、土曜、日曜を山にブールに庭掃除に過しました。山行は次のとおりです。

7月4・5日 奥多摩大寺山（針葉樹会員多数と）

7月11・12日 会津駒ヶ岳（佐薙、柴崎両氏と）

8月2日 奥多摩鷹の巣沢（久保、佐薙両氏と）

8月24・25日 岩手山（久保氏と）

昨年の夏は、マイカーでオーストリアのグロスグロックナー山の氷河見物をしました。

在欧中は山歩きの余裕がなく、今後はその分を日本で歩きたいと思っております。

〔加地幸雄 ○カナダより〕

五、六年前石君、それから四、五年前には南さん一家、二、三年前には瀬田さんが当地に来られましたが、その他の針葉樹会の諸氏には全く長い間御不沙汰しています。石君と瀬田さんがその折書いた僕との山行の譜を、いつでしたか針葉樹会報で思い出深く読みました。最近の会報で吉沢さんのカナジアン・

ロッキー登山録を読み、意欲満心。誰か来年の九月にでもカナダのロッキー登りに同行しませんか。技術面では確信がありますが、体力、耐久力にかけては若い先輩諸君と一行でできると思います。有志の方はどうか当方に連絡して下さい。

〔石井左右平 ○アメリカより〕

此の夏も人を連れてヨセミテへ行き、岩の香りをかいだて来た位。

尚、小生、念願かない漸く日本に帰れる事となりました。十一月初旬には日本に居る事と存じます。忘年会でもあれば、皆様に御会い出来ると楽しみです。

日本の勤務先は再び丸ビルの太平洋貿易となります。また、御世話になります。宣教く。〔丸子博之〕

度々連絡をいただきながら、長らく御無沙汰誠に恐縮です。

三年半のロンドン勤務を終え9月はじめに帰国しました。

子供の教育費の都合で、家族は年末までロンドン住い。小生は独身社宅でチヨンガーブ

らしですが、帰国早々欧米へ一〇日間出張、から上は細い雪稜となつて、二〇年ぶりのア 海外からのお客も多くあわただしい毎日です。イゼンで緊張しながらも快調に登りつけ、 夏休みは、ロンドンから車で、ザルツカン 一一時二〇分頂上着。あくまでも快晴のなか マーグート、チロル、スイスと山を眺めに行 で、アイガーの西壁をのぞき込み、ユングフラオを真近かに眺め至福に醉いました。

〔有賀盈 ○イギリスより〕

ロンドン駐在初めての夏休みを、8月4日から7泊8日で家族とともにグリンデルヴァルトに過しました。連日超快晴に恵まれ、ベルナーオーバーラントの景観をハイキングで満喫しました。なかでも圧巻だったのは、家族をふもとに残し、ガイドにつれられてメンヒ四〇九九メートルに登った一日です。

〔石弘光〕

今夏二つの山行をおこなう。 8月8日、朝七時、グリンデルヴァルトの(1)7月13・14日 ゼミ合宿をかね、24名の学生と、平標山・仙ノ倉を松橋の方から登る。

直ちにトンネルを抜けてなだらかな雪原を歩くこと約半時間で、オーバーメンヒヨッホ小屋の手前に左手からおりて来るメンヒノ南稜(または東南稜か)の取付点に到着。直ちに小6の男子)を連れ、涸沢から北穂・奥穂の縦走を計画。例によつて雨のため、北穂で断じめの三分の一ほどは岩尾根が主だが、それ

ことができた。往復、上高地経由。

から上は細い雪稜となつて、二〇年ぶりのア 海外からのお客も多くあわただしい毎日です。イゼンで緊張しながらも快調に登りつけ、 夏休みは、ロンドンから車で、ザルツカン 一一時二〇分頂上着。あくまでも快晴のなか マーグート、チロル、スイスと山を眺めに行 で、アイガーの西壁をのぞき込み、ユングフラオを真近かに眺め至福に醉いました。

帰りは同じルートをたどり、一時過ぎ取付 点に帰着。クライネシャイデックで見上げた メンヒは、首が痛くなるほど高く、アイガー ルトにもおとらず堂々とそびえていました。 北壁にもおとらず堂々とそびえていました。 これから毎年夏休みは、ヨーロッパアルプス で山合宿をすることに決心しました。

〔村上泰介〕

1. 夏休み

8月9日 佐藤之敏君（四〇年卒）来広し 四・三〇上高地発—一六・三〇岳沢ヒュッテ 清話歎談す。

8月10日 広島—（中国自動車道路）—大 津（琵琶湖にて水泳）—京都（泊） 以下愚息（一〇歳）と同行。

8月11日 京都—（新幹線）—三島—（バス）—富士宮（泊）

8月12日 富士宮—（身延線）—甲府—（中央線）—松本（泊）

8月13日 松本—（バス）—上高地—明神池—上高地（泊） 体調悪く西穂断念す。

8月14日 上高地—（バス）—松本—（中央線）—名古屋—（新幹線）—京都—（名神道路）—大阪南港—（フェリー・泊）

8月15日 —帰広（出勤）

2. 休日

近隣の七〇〇メートル峰を歩いて気力充填中であります。

〔原博貞〕

8月12～14日 小3、小5の子供と家内を

連れて穂高に登りました。

8月12日 八・〇〇あずさ三号新宿発—一

四・三〇上高地発—一六・三〇岳沢ヒュッテ 着。

夕焼けの明神三峰をながめての水割りは最高。

8月13日 六・〇〇岳沢ヒュッテ発—九・〇〇前穂—奥穂高頂上、大休止。

子供は徳沢まで行くと張り切っている。

奥穂—白出のコル—涸沢—一六・〇〇

登りには子供は強いが、下りは全く駄目。ザイテントー涸沢間ではメロメロにバテてくれ、親父の面目は保たれました。

8月14日 七・〇〇涸沢発。途中、横尾、徳沢、明神で遊びつつ、上高地—三・〇〇。そのまま、帰京。

〔佐藤活朗〕

1. 今夏の実績

① 7月11～14日 北岳バットレス（現役学生と）。Cガリ—大滝—第四尾根と、Dガリ—奥壁を登る。久しぶりの岩登りに興奮。

② 7月 丹沢勘七沢（単独）。藤本氏一行とおちあえず、ひとりで。

③ 8月1～2日 甲斐駒黄蓮谷（金子、藤本、小林の諸兄と）。

以上、週末の夏山をフルに楽しむ。その後は、インド出張のため9月に至るまで夏休みとれず。デリーで中村君ら現役インド登山隊に会つた。

編集後記

加藤氏から引きついで、今号から私（松田重明、昭和五十三年卒）が、針葉樹会報の編集を担当することになりました。最近は山に登る暇もない毎日なので、会報担当などはおこがましい次第ですが、先輩諸氏のご援助をお願いいたします。

最初の担当号で、学生三君の遭難記事を掲載することになってしまいました。今だに彼らの死を実感できずに困っています。

さて、今号から「復刊」なしの六〇号となりました。「復刊」をとつたことの意味は、これからじっくり考えようと思っています。

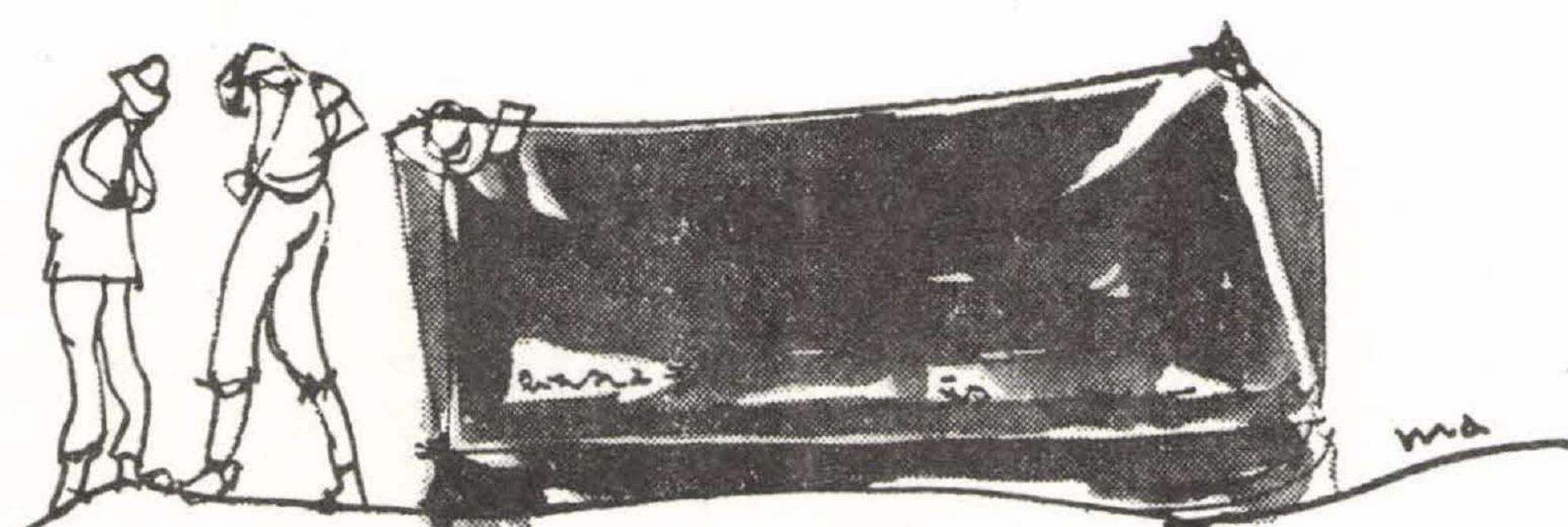
一橋山岳部 インドヒマラヤ登山隊遭難報告

会報五九号で紹介しました、インドヒマラヤのホワイト・セール峰（六四四六メートル）登頂を目指した現役四年生中村・土方・満濃の三君は、九月十日前後同峰南東稜上で行方不明となり現地登山学校、及び会員有志による搜索活動も空しく三君を未発見のまま十月中旬一連の活動を終了しました。この間の経緯は、既に会員各位にお送りしました遭難報告書（十月三十一日付、一橋山岳会発行）の通りです。遠征隊員三名が、出発前に援助をいたいた方々を含め、今回遭難によりお世話になつた日本及びインドの関係機関への御礼・挨拶等も一橋山岳会として取りあえず済ませております。また、搜索活動、連絡事務に要した諸経費は、保険金支払手続きが順調に進んで何とか填補範囲内で賄われる模様です。

一日、故土方浩君は十一月二十三日、それぞれ都内にて行なわれ、本会から岩崎副会長ほか若手会員が列席致しました。故中村宣幸君の葬儀も本年中に実家の四日市で行なわれるとうかがっております。また山岳部も三君の合同慰靈祭を十二月中に催す予定です。

山岳部の活動については、とりあえず冬合宿は中止することにし、本遭難に関する詳細な報告書及び追悼文集の作成を進めるなかで、春合宿以降の活動につき検討している段階です。会員諸氏におかれましても、有益な助言等御支援の段、宣しくお願ひ申し上げます。

（加藤記）



会員名簿変更

先日お配りしました1981年度版会員名簿につき、下記の誤りおよびその後の移動等がありましたのでご訂正下さい。

卒業年度	氏 名	変 更 点
昭 14	佐々木 誠	郵便番号：117→177 自宅電話番号：(920)0476→(920)0470
〃 19	原 田 豊	(住居表示変更)新住所：▼351 朝霞市三原4丁目2番23号
〃 26	小 泉 三 好	自宅電話番号：044(86)4865→044(966)2559 勤務先電話番号：(217)6134→(296)2501
〃 27	横 山 晴 一	自宅電話番号：0467(85)4855→0467(86)4865
〃 27	小 林 宏	(転勤)自宅：5.Macqnarie Court, MT, Ommaney, Queensland, Australia TEL 376-5850 勤務先：Mitsubishi Australia Ltd, Brisbane Branch, G.P.O. Box 1333 Brisbane. Queensland 4001 Australia
〃 33	柴 崎 新	自宅電話番号：0425(51)1736→0425(51)8347 勤務先：福生市福生654 駅交運社 TEL 0425(52)7712
〃 34	宇田川 徳 治	(アメリカ駐在より帰国)自宅：▼187 小平市津田町2-6-10 TEL 0423(41)8177
〃 36	大 賀 二 郎	勤務先：三菱銀行新宿新都心支店 TEL 346-1231 (メキシコ駐在より帰国)自宅：▼240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町3-439 TEL 045(333)9490
〃 36	中 島 寛	勤務先：日産自動車駅第1調達部車両課 TEL 03(543)5523 勤務先：Avenida Taulista 1294-1318 5 under, Sao Paulo, Brazil TEL 284-1788
〃 37	大 建 二 郎	自宅電話番号：0474(75)4526→0474(73)6421
〃 46	金 子 晴 彦	勤務先：日本国有鉄道 TEL (212)6311 (代)内線1-6532
〃 51	前 神 直 樹	(メキシコ留学より帰国)勤務先：日商岩井 船舶部傭船一課 TEL (588)2689, 2268 自宅 TEL 0426(35)7935
〃 53 名簿22 ページ	近 藤 泰 森 川 真三郎 矢 作 太 郎	自宅電話番号：(465)0461→(465)0463 卒業年度：昭13→昭14 右側3行目：大作太郎→矢作太郎

今後の住所・勤務先等の変更についても下記担当まで御一報下さい。

▼ 241 横浜市旭区さちが丘4-5 佐藤活朗

勤務先 TEL 03-215-1311 内線 486

会計報告

昭和55年度会計収支決算及び56年度予算表

I 昭和55年度会計収支決算書

支 出	金 額	収 入	金 額
会報発行費	582,870	会 費	1,058,000
山岳部補助	200,000	雜 収 入	7,239
通信信費	17,400	前 期 繰 越	204,064
印刷刷費	0	当 期 損 失	62,147
事務費	570		
雜費	3,770		
その他経費	20,000		
遭対基金繰入	51,840		
未 払 費 用	455,000		
次期繰越金	0		
合 計	1,331,450	合 計	1,331,450

II 昭和55年度収支明細

収入の部			
1) 会 費	1,058,000	3) 事 務 費	570
51年度分	3,000	コピ－原紙	570
52 "	35,000	4) 雜 費	3,770
53 "	164,000	振込手数料	1,470
54 "	222,000	被仕向外国送金手数料	1,500
55 "	491,000	奉賀帳	800
56 "	70,000	5) その他経費	20,000
57 年以降分	46,000	お香典	10,000(故久保田礼治氏) 10,000(故岡田謙三氏)
支出の部		6) 遭難対策基金繰入	51,840
2) 会費発行費	582,870	学生山岳保険代補填	51,840
56号印刷費	293,700	7) 未 払 費 用	
57号 "	179,850	会報58号印刷代	273,900
表紙写真組代	3,500	針葉樹会名簿印刷代	121,500
56号郵送料	36,440	同発送費	37,570
57号 "	30,980	総会案内状及び返信切手代	22,030
58号 "	37,520		
その他雑費	880		

III 昭和56年度会計収支予算書

支 出	金 額	収 入	金 額
会報発行費	800,000	会 費	1,193,000
山岳部補助	200,000	雜 収 入	7,000
通信信費	25,000		
事務費	2,000		
雜費	1,000		
その他経費	20,000		
遭対基金繰入	60,000		
前期損失Cover	62,147		
次期繰越金	29,853		
合 計	1,200,000	合 計	1,200,000

事務合理化の御相談は

株式会社 和香

- ◇ 各種印刷
- ◇ 富士通ワードプロセサー販売

東京都荒川区西日暮里2丁目45-5
電話(803)1341(代)

取締役 遠藤晶士(昭和37年卒)

むづかしい御相談でお疲れになつたら

心のふるさと みね

- ◇ 各種のお酒とりそろえてあります
- ◇ お値段は人品骨相次第
- ◇ 人生相談もうけたまわります

ギンザ1-10-5 TEL (535) 2021

取締役 みねさん(昭和57年卒)